

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 035	提案機関名 畜産課
要望問題名 IoTを活用した家畜浄化槽の管理実証	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・本県では家畜の浄化槽が比較的早い時期から設置されており、近年浄化槽自体の老朽化に伴い、維持管理がますます難しくなっている。 ・一方、生産者は家畜の生産に日々追われ、頭ではわかっているが、なかなか浄化槽の維持管理にまで時間を割くことはできない現状がある。 ⇒ そこで、近年、国や本県の農業施策にも取り入れられている「ICT、IoTを活用したスマート農業（畜産）」を県内の畜産環境対策にも応用すべく、現在、他の研究で連携しているNTT等の民間企業と連携し、既存の施設をIoTと組み合わせることで、生産者の環境対策の負担軽減を図るため、「IoTを活用した家畜（特に養豚）浄化槽管理の実証」をしていただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ご指摘のとおり、本県の家畜排せつ物処理施設は老朽化が進み、施設の修繕・改修もままならない中で、設計以上の高負荷での維持管理を行っている農場が多くみられます。しかし、非採算性部門である家畜排せつ物処理施設への投資は優先順位が低くなり、修繕・改修が進まないのが実情です。 浄化槽分野へのスマート畜産の応用として、ご提案のありました浄化槽の維持管理・支援システムについては必要性は高いとは思われますが、開発・初期投資・ランニングコストが高額となることが想定されます。まずは、畜産農家がメンテナンス可能なセンサー類を選定し、放流槽や曝気槽等へ設置、携帯電話等へのアラームの通知等を行うような簡易なシステムから、今後、ニーズも含めて検討していきたいと思えます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			